



貴重資料展示

熱き時代

アーカイブでよみがえる炭鉱



坑道を維持する



石炭を掘る



炭鉱の子供たち(山口 勲氏 提供)

■平成19年**2月15日(木)~20日(火)**

(10時~18時、最終日は16時まで)

■**アクロス福岡 2階交流ギャラリー**

(福岡市中央区天神1-1-1)

入場無料

■主催／九州大学附属図書館、福岡県立図書館
■共催／(財)アクロス福岡 ■後援／福岡県図書館協会 ■協力／福岡市総合図書館
■問合せ先／九州大学附属図書館 TEL 092-642-2533 e-mail: circ2@lib.kyushu-u.ac.jp

■同時開催

パネル展「心の故郷(ふるさと) ～炭鉱と暮らし～」
アクロス福岡1階 コミュニケーションエリア(円形ホール前)にて

■関連講演会

平成19年2月18日(日) 午後2時~3時30分 アクロス福岡 1階円形ホール

講師: 荻野喜弘(九州大学附属図書館付設記録資料館 館長)

演題: 「炭鉱って何だったのだろうかーわたしの筑豊ー」

定員: 120名【要事前申し込み】

申込み先: アクロス福岡文化観光情報ひろば TEL.092-725-9100

入場無料

貴重資料展示

熱き時代

アーカイブでよみがえる炭^や鉱^ま

我が国の近代化を支えた
石炭産業。

石炭標本や採炭道具、写真集や地域の記録として残された貴重な資料など、九州大学附属図書館と福岡県立図書館が所蔵する石炭関係資料約六百点を展示し、筑豊や大牟田で石炭産業を興した福岡県出身の実業家の人物像や地域貢献について、また、坑内の厳しい労働に生きた人々の暮らしや坑内事故・労働運動について、その歴史を振り返ります。

伊藤伝右衛門邸など、近代化産業遺産として保存し観光振興に取り組む現代の動きもあわせて紹介します。



石炭標本



採炭道具



絵葉書



炭鉱札



■関連講演会

「炭鉱って何だったのだろうか
—わたしの筑豊—」

九州大学
記録資料館 館長
荻野 喜弘 教授

わたしの筑豊についての原イメージを作ったのは上野英信の『追われゆく坑夫たち』と『地の底の笑い話』という岩波新書2冊であった。

極端に異なる2つのメッセージをどのように受け止めたらよいのか、それを探求することがわたしにとって大きな研究課題となった。

いまだに確たる答えは見つからないが、いろいろと考え、体験してきたことを「炭鉱って何だったのだろうか」という視点から話してみたい。

■関連映画上映会【特別企画】

会 期：平成19年2月22日(木)～25日(日)
場 所：福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ
(福岡市早良区百道浜3-7-1)

作 品：「炭鉱(ヤマ)に生きる」
(2004年 70分)
「海底炭鉱に生きる 池島からの報告」
(1983年 54分)



「炭鉱(ヤマ)に生きる」© 2006 MONTAGE inc.



■展示会場／アクロス福岡 2階 交流ギャラリー

福岡市中央区天神1-1-1

■展示期間／平成19年2月15日(木)～20日(火)

午前10時～午後6時まで(最終日は午後4時まで)

■交通案内／JR博多駅から天神まで・地下鉄で5分

地下鉄天神駅から徒歩2分／西鉄福岡(天神)駅から徒歩4分

■問合せ先／九州大学附属図書館(TEL:092-642-2533)

e-mail: circ2@lib.kyushu-u.ac.jp

URL: <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>

福岡県立図書館(TEL:092-641-1183)

e-mail: sanko00@lib.pref.fukuoka.jp

URL: <http://www.lib.pref.fukuoka.jp/>